

区民等の意見概要と教育委員会の考え方について

※網掛けの箇所は、計画に反映させた意見

No.	意見概要	教育委員会の考え方
第 2 章 子ども読書活動推進の取組 ○学校における読書活動の推進		
1	子ども同士が読んだ本について話す場を学校生活の中に組み込めないか。本に対しての関心の持ち方が変わると思う。	子ども同士が読んだ本について話す場として、読書週間や月間等では図書委員の児童・生徒による本の紹介や、中学生から小学生へ、小学生時代に読んでおもしろかった本をハガキに書いて薦める読書郵便、授業の中でビブリオバトルなどを行っています。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、16 頁に掲載している「読書活動・読書指導の充実」に文言を追記します。
2	児童・生徒の読書意欲を促すために、適切なタイミングで適切な図書を手渡す大人の役割が重要。	朝読書や読書週間(旬間・月間)、授業において、読書に関心のない児童・生徒等に対して、教員や学校司書が隣に座って読んだり、興味のありそうな本を教室まで届けたりするなど、可能な範囲で個別に対応しています。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、16 頁に掲載している「読書活動・読書指導の充実」に文言を追記します。
3	16 頁 「読書活動・読書指導の充実」については、「味見読書」の趣旨は理解できるが「味見」との言葉に違和感がある。他に適切な表現方法はないのか。	「味見読書」の用語は、東京都子ども読書推進計画の実践例や、各種学校図書館関係の出版物にも多数採用されておりますので、この用語を使用しました。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、16 頁に掲載している「読書活動・読書指導の充実」に文言を追記します。
4	学校図書館の蔵書は、各校対応となっているが、蔵書の質にバラつきがある。児童生徒の多様性に対応できるよう選書に柔軟性を持たせつつも、区として学校図書館に備える標準図書を定めるべきではないか。ただし、教育内容や児童の多様性に対応できる余地も必要なので、学校の選書には柔軟性が大切である。	学校図書館は、学校の教育課程の展開に寄与するため、学校状況に合わせた特色ある学校図書館運営を進めています。各校では、蔵書の選定基準に従い、校内で担当教員や管理職、学校司書等が、選書や蔵書の更新を行っており、学校図書館に関わる複数の目で選ぶようにすることで蔵書の質を保ち、教育内容や児童の柔軟性に対応できる選書の多様性を確保しています。

5	学校サポートデスクの充実(人員の確保)が大切。フルタイムの職員を増やすべき。	学校図書館サポートデスクの職員体制については、人件費の課題等を考慮し、現状の人員体制で効率的に運営してまいります。
6	学校司書の研修を各個人の実情に合わせてながらきめ細かく実施し、個々の力量に差が出ないよう育成してほしい。	毎年、学校司書一人ひとりから希望する研修内容を聞き取って、次年度の研修を組み立てています。また、全員必修の学校司書研修に加えて、各個人の必要性に応じて、受講を選択できる研修も充実していきます。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、18 頁に掲載している「学校司書向け研修」に追記します。
7	学校司書が児童生徒の読書環境整備や授業の支援ができるよう校長先生をはじめ、他の先生に学校司書の役割をしっかりと理解してもらいたい。	管理職向けの研修や、新任の教員研修、学校図書館活用のための研修などを実施し、学校司書の役割をアピールしていきます。
8	各学校図書館が学校の特色に合わせてながら「学校図書館の運営体制の確立」(18 頁)を実施することで、学校図書館が確実に充実すると思うので、全校での確立を推進してほしい。	学校図書館活用実践校事業や研修の機会を通じ、引き続き、学校へ働きかけていきます。
9	サポートデスクから学校司書へのサポートや研修は行われているようだが、学校司書同士の横のつながり、情報交換の場はあるか。	学校図書館システムを通じて、情報交換が可能となっており、テーマに沿った資料集めや授業支援活用事例の共有、休み時間の開館状況調査など、活発に情報交換を行っています。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、18 頁に掲載している「学校間の情報共有」を修正します。
10	学校図書館の書架が不適切で困っている学校もある。改築等が行われる際には、現場の意見を取り入れて慎重に選択してほしい。	学校図書館の改築・新築の際には、担当課が、学校司書等の現場職員の意見を取り入れて、改築等に対応しています。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、19 頁に掲載している「図書・施設・設備の整備・充実」に文言を追記します。

11	コロナ禍で学校図書館の利用に以前より制限がある。感染対策も重要だが、子どもたちに本に親しむ機会をなるべく増やしてほしい。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校図書館では、学年ごとの利用時間の制限や人数制限を行っていますが、こうした状況においても、児童・生徒の読書機会を増やすため、学校図書館以外の場として、廊下に人気の本を別置したり、教室へのセット貸出やロビー等へ出張貸出を行ったりするなど、工夫を図っています。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、19 頁に掲載している「図書・施設・設備の整備・充実」に取組を追記します。
12	学校司書が安心して仕事に打ち込めるよう、6 年間の有期雇用ではなく無期限雇用がよい。	学校司書は会計年度任用職員として採用しており、会計年度職員の公募によらない再度任用については、杉並区会計年度任用職員の任用等に関する規則に基づき、学校司書に限らず、5回を限度とすることとしております。
○図書館における読書活動の推進		
13	区立図書館の児童書コーナーには、児童が質問や相談をしやすくし、また、死角のできやすい場所で安全に過ごしてもらうためにも、必ずカウンターを設置してほしい。	施設の都合上、児童専用のカウンターを設置していない図書館では、図書館員が子どもから声を掛けられやすいよう目印のバッジを付けたり、図書館員が巡回するといった対応を行っています。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、23 頁に掲載している「読書相談、レファレンスサービスの充実」に児童が相談しやすくなる取組を追記します。
14	100 冊以上借りた子どもは図書館から表彰するなどすると読書が習慣づくモチベーションになるのではないか。	区立図書館では、読書スタンプラリーを実施し、修了証や景品を渡すなどの取組により、図書館利用の啓発を行っています。今後も、様々な工夫により、読書の習慣が身につくような取組を進めていきます。 ご意見を踏まえて、よりわかりやすい記述となるよう、23 頁に掲載している「多様な読書の機会の提供」に読書が習慣づく取組の内容を追記します。
15	過去に読んだ本を記録したい。マイライブラリのマイブックリストは 1000 冊までしか登録できないため、幼児でも扱える紙媒体の読書通帳を作成してほしい。	区立図書館では、手書きの読書通帳を配布している事例もあります。今後も、子どもの読書意欲を高める取組として、読書通帳の活用などについても検討していきます。

16	子どもを連れて重い本をもって図書館入口のブックポストまで行くのが大変なので、児童館や駅などにも本を返却できる場所を設置してほしい。	区立図書館以外に本の返却や貸出ができる窓口(図書サービスコーナー等)を5カ所設置していますが、駅等へのブックポストの設置については、スペースの確保や設置に伴うコスト等の課題があり、予定しておりません。
17	各図書館に、中央図書館にあるような乳幼児が床に座れる土足禁止のスペースがあると非常に助かる。	区立図書館では、「おはなしの部屋」等、靴を脱いで上がり、親子で本を楽しむことのできるスペースを用意しています。今後も乳幼児親子が図書館を利用しやすい環境づくりに努めていきます。
18	図書館の貸出履歴を記録・自分で確認できるようにシステム改修してはどうか。	区立図書館では、個人情報保護の観点から、過去の貸出履歴は削除するシステムとなっています。なお、図書館ホームページ上で自分のブックリストを作成することができますので、この機能の活用・周知を図っていきます。